

平成 30 年度 第 3 回 伊勢市障害者施策推進協議会自立支援部会 議事録(要旨)

開催日時 平成 30 年 6 月 4 日 (火) 午後 1 時 30 分～3 時 30 分
開催場所 御薊総合支所 会議室 2 - 4
出席委員 嶋垣智之委員、浦田宗昭委員、森見典子委員、
光山佳津美委員、鬼頭由華委員
欠席委員 市川知律部会長
事務局 障がい福祉課長、障がい福祉係長、主査
(庶務担当) 伊勢市障害者総合相談支援センター基幹型職員 2 名
傍聴者 0 名

1 あいさつ

(課長) 8 月の施策推進協議会本会へ向けた協議になる。地域生活支援拠点チームの報告も市への骨子提案の検討も大詰めとなってきた。来年度予算に向けた内容となる。ご検討等、協議よろしくお願ひしたい。

(事務局) 会長欠席につき、規則第 3 条、第 4 条にて、職務代理嶋垣委員に議事の進行をお願ひします。

2 自立支援部会の今後のあり方について

●事務局より説明。

前回部会において、プロジェクトチームでのテーマは期間限定ではなく、恒常的で常設的な議論ができる会議、委員会が必要との提案があった事について、事務局で検討した。施策推進協議会本会と専門的な検討を行う部会については条例で決まっている。前回、人材育成の検討は市としても必要であり、ゆくゆくは部会にしていくことも想定した上でチームを立ち上げる必要があるとの議論もあった。以上を踏まえると、部会とチームの間に恒常的なテーマのための委員会を設けると、部会全体の組織図が複雑になる、今後新たな部会の創設も考えられる中では、役割が混在してしまうと考えた。プロジェクトチームの中で、恒常的な課題に取り組むチームと、限定的な課題のチームとつくるのでどうかと事務局より提案したい。

今回は、プロジェクトチームの位置づけ等も含めて、部会の組織構成のあり方、各会議の役割を議論してもらいたい。来月はプロジェクトチームのテーマと委員構成のご検討をいただきたい。これらを合わせて、8 月本会への提案としていきたい。

地域課題分類表は、これから必要なプロジェクトチーム検討するための資料。これをもとに検討を頂きたい。

課題提出票は前回の意見を踏まえ修正した。記入のしやすさの意見を踏まえた。ただし、『協議して欲しい事』では、人任せになりやすいので、一緒に考えるための形として『協議したい事』とした。名称は、堅いとの意見もあったが、一番分りやすいので残し、サブタイトルを付けることで柔らかくした。

【各委員主な意見】

(委員) 地域生活支援拠点は課題の中では中項目になっているので恒常的なチームと考えたら

いいのか。

(事務局) 拠点チームは当初は骨子提案までの有期限としていた。現在のチームについては、期間限定的なチームとなる。

前回部会長から恒常的な課題に検討できる場をつくるべきだとの意見もあり、事務局ではプロジェクトチームのくくりの中で恒常的な課題に取り組むチームとして分類したらどうか、というのが案である。

(委員) プロジェクトチームのくくりで色々なチームを作るということか？

(事務局) 今まで一つしか設置していないが、プロジェクトチームを作るときに、長期的な課題に取り組むチーム、または有期限のチームを作ることができると考えている。

(委員) 本会委員も任期等ある中で、プロジェクトチームにおいても、まずは2年間などの任期を検討頂きたい。異動になる事もあるし、負担も大きくなる。

(委員) 地域生活支援拠点チームでは市民対象の報告会もしたが予算が無かった。チーム等に予算は付くのか？

(事務局) 現状は付いてない。つくならば、チームへというより部会としての予算になるだろう。

(委員) チームがたくさん出てきたら、部会の頻度も変わるので、現状の部会委員への予算も変更になってくるのではないか。

(委員) 報告会も主催は部会だったが、そういうやり方という事か？協議してチームから部会へ挙げるのか？恒常的チームでも限定的チームでも同じやり方という事か？

(事務局) 同じになる。チームだけで決定するのではなく、部会にあげて決定することが必要。

部会だけでは詳しい調査・協議の時間が無いので、プロジェクトチームを作る。チームで練ってもらったものを、部会へあげて、必要ならばさらなるチームを作るというイメージ。

(委員) 例えば、就労として恒常的にやるとしたら、どうやっていくイメージか？

(事務局) この課題をどうしたいと提案もらって、チームを作っていくのが良いのではないかとチームを作るかどうかは部会にて決める。目的や期限も部会で検討した上で作ることになる。

(委員) チームの方は任期2年などを決める必要がある。永遠では敬遠する。

(事務局) 恒常的な地域課題についてのチームということであり、チームが無期限に設置されるわけではない。

(委員) 任期がある方が、受ける方は負担が少ない。

(委員) 小さいテーマの優先順位がここで決められるなら良いが、課題の精査が必要ならばそれを目的に長期のチームの立上げも良いのでは？

(委員) 地域生活支援拠点チームは、目的や期限も決まっていたので分かりやすかった。

(委員) これからのチームの具体的なテーマを決めていくことについては分かった。ただし、地域生活支援拠点チーム委員として、会議終わった時に他のメンバーから、毎月会議があり時間も取られ、宿題もある、お茶1本くらいあっても良いのでは？との声も出ているのが実際である。チームの必要性と、委員になってもらうあなたが必要な理由とかも大事である。チームメンバーはそれぞれ責任のある立場の人ばかりで多忙な中、無報酬で協力していただいている。お茶だけでも出せないものか。

(委員) チームとは、以前の直B問題のイメージで良いかと思うが、ヘルパーとか本当に人が

いないので、課題として大きい。ヘルパーさんはチームの検討や交流会への参加自体も難しく、切実な問題である。

(部会長) チーム委員の担っている事や、何に向かっているのか?などの整理、チームだけでなく部会等も一緒にというスタンスなど、委員の立ち位置の整理・認識が大事だろう。

チームを2種類にするなら、短期型・恒常型と分ける方が分りやすい。期間限定とか。地域生活支援拠点チーム報告、課題分類表などから、いろいろ課題が出されていた。

今後の方向性は、どのテーマにするか?

(事務局) 課題分類表だけから絞るわけではない。委員から就労というテーマでの検討の必要性の意見もあるし、人材育成についても意見出ていた。

(委員) 課題提出票、ネットワーク会議、計画相談からの課題。およびH29年度部会で議論してきた課題、地域生活支援拠点チームからの課題、障害福祉計画の検討の中での課題もある。優先順位をどうしていくのか?

(事務局) 何を課題としてやっていくのか、優先順位をどう判断するのか、部会として話し合い、テーマを決定してもらう。

(部会長) 部会の各会議の役割、組織体制についてはOKか?

(各委員) 異議なし

(部会長) 課題分類表については、複数挙がっている項目は優先度高いだろうし、障害福祉計画に記載のところは大事である。それがわかりやすいようにしてください。

3. 地域生活支援拠点について

【チームリーダー委員より報告】

- ・今回は、地域の体制づくりの機能を検討した。資料を基に説明。
- ・次回、骨格提言へ向けて、各委員が意見を持ってくることとなっている。

【各委員の主な意見】

(委員) チーム委員も、特にヘルパー事業所などチーム会議に出るのが大変との現状。人材確保や育成など、どこでもある課題なのかもしれない。

(委員) チームの訪看の話聞いて現状が理解できる。同じ仕事をしている者同士、グチを言い合う、勉強し合うことが大事と思う。施設の看護師同士や地域の看護師も交えて刺激をもらいあえると良い。

(委員) 地域の緊急対応を支えているのが訪看という現状がある。ショートで受け入れたら訪看から専門的なアドバイスしてもらえると良い。この人に相談したら、何とかなるかもと思える事で、続けられる、頑張れると思える。

(委員) 導尿のために、訪問看護が小学校に行っていたり、家族が病院に行けず訪看がケースを見守るからと家族が病院へ行ったらすぐに治療が必要な状態だったとか。実際に起きている事を知る事が出来ると、どのようにサポート出来るかと考えられる事になる。

(委員) 人材育成や確保として、介護保険の生活支援サポーターの活用とかの仕組みがあると良いのではないかな。

(委員) 支援者が辞めていく現状があるが、モチベーションが上がるのはどうすれば良いのか?支援者にもグチを言える場が無いといけない。自分だけが悩んでいるのではないと思える事が大切ではないかな。

(委員) グループホーム等で体験をするにも世話人はパート職員で専門性を求めるのは難しいという現状。どうスキルを上げていけばよいのか？生活支援サポーターが入っても、どうスキル挙げて行くのかになるだろう。医療的ケアは時にハードルは高い面がある。

チームメンバーからは、人材育成を力入れてほしいとなっている。

(委員) 慢性的に人手が足りない(人材確保) プラス、人材を高めていく(人材育成)の取り組みが必要である。

(委員) 一人で抱え込むと大変。同じ事業所だけでなく、他事業所等と連携できると良い。

(委員) 地域連携のコーディネーターが必要である。スーパーバイズできる教えられる体制が必要だが、人数少ない事業所とかは難しいので、地域全体でスーパーバイズ、コーディネートできると良い。

(担当委員) 今日の部会の意見も踏まえ、地域の体制づくりとして来月まとめる。来月の部会へ拠点の骨子を提案するので、また意見ください。

4. その他

・次回部会：7月3日

御菌総合支所 会議室2-4

・地域生活支援拠点チームは、6月21日チームとして最後の会議にて骨子提案素案の議論、次回部会で提案となる。